

## 第1回 石狩市総合教育会議 会議録

1. 日 時 平成27年5月28日（木）13:00～14:10
2. 場 所 石狩市役所3階 庁議室
3. 出席者 6名（全員）

### 総合教育会議構成メンバー

役 職	氏 名
石狩市長	田岡 克介
教育委員長	徳田 昌生
教育委員（委員長職務代理者）	門馬 富士子
教育委員	松尾 拓也
教育委員	山本 由美子
教育長	鎌田 英暢

### 4. 事務局等

#### 事務局

部 局	役職	氏 名
企画経済部政策担当	部長	小鷹 雅晴
	参事	伊藤 学志
	主査	武田 知佳
	主任	柿崎 恵一

#### 出席職員

部 局	役職	氏 名
生涯学習部	部長	百井 宏己
	次長（社会教育担当）	東 信也
	参事（指導担当）	濱本 賢一
生涯学習部総務企画課	課長	蛭谷 学俊
	主幹	松永 実
	主査	高石 康弘

### 5. 傍聴者 なし

### 6. 協議事項

- ① 開 会
- ② 総合教育会議について
- ③ 会則（案）について
- ④ 大綱の策定について

- ⑤ その他について
- ⑥ 閉 会

## 7. 協議内容の記録（経過、質疑・意見）

### （会議公開に伴う確認）

（事務局説明）

- ・議事録は要点筆記とする。
- ・氏名は記載しないで役職名で記載する。
- ・発言について、市長、教育委員会、事務局（出席職員含む）の区分とする。
- ・議事録は完成後委員にも配布し、指名する委員から署名を頂き、決裁後ホームページへ公表する。

### （協議事項 1. 総合教育会議について、2. 会則について）

（資料 1,2,4 について事務局より説明）

【教育委員会】 資料 4 の中で所信表明・教育行政執行方針案について記載されているが、これらの記載内容については協議するのか。

【教育委員会】 この会議の趣旨を考えると市長の意見を先にお伺いし、協議するよう感じられる。市長の考えと教育委員会の考えをどこまで調整できるかがポイントである。

【市 長】 総合教育会議の議論を所信表明に反映させるということは大切である。今までは予算措置された実効性のあるものを盛り込んでいたが、課題等については執行方針作成の段階では話していない。これからは市長と教育委員会が共通性をもって進めていくという仕組みを作っていけると思う。

【教育委員会】 市長の所信が出る前に大まかな方針をお示し頂き、教育委員会で考えていることを反映し、組み合わせられた形で表明頂いて、さらに教育行政執行方針のほうにも反映されるのが本来は望ましいと考える。

【市 長】 予算措置されたものを発表するのではなく、予算編成にあたって新年度「この様なことをやりたい」等の議論をするのがこの会議の役割である。今年度は選挙があったのでスケジュール上、つめ切れていない部分

もあるが、皆さんと率直に意見交換をしたいと考えている。会議を開かない事自体が問題になってはいけない。

【事務局】 現時点での所信表明案と教育執行方針案を追加資料としてお渡しするので、意見があれば後日、事務局まで伝えて頂くことでよろしいか。

(了承)

【市長】 この会議については、スケジュールにあるような2～3回の開催で終わらせず、教育委員会会議に配慮しながら、回数にこだわらずに開催できればいい。

【事務局】 今回のスケジュール案では、大綱を策定するには最低でも年3回ぐらいと考えているが、会則に記載の通り、必要に応じ開催していきたいと考えている。

【事務局】 総合教育会議についてはよろしいか。

(了承)

【事務局】 会則については案のとおりでよろしいか。

(了承)

### (協議事項3. 大綱について)

(資料3について事務局より説明)

【市長】 資料3について、法律案件が書かれているが、大綱については、今抱えている問題等もある程度記載すべきと考える。

課題に対応するためこの会議で議論し、大綱を通して、意思の疎通を図っていくことを基本方針としたい。

課題としてあえて言うならば、例えば、「6・3制」の問題、「小1の壁」、中学校の受験校化の問題、外国語をどうするとか、あるいは「総合的な学習の時間」にもう少し社会性を持たせるべきかなど。

学校現場は市民の参加を期待している部分もある。その仕組みをどう取り入れるかなど、そういった問題などについて今後大綱にどう入れ込むかなどが考えられる。

【教育委員会】 私も個人的には「6・3制」のことも以前から議論したいと思っていた。小中一貫でいうと「4・3・3」という形もありえる。今の状況は

児童・生徒数も年々減っているので何か方法を考えないと立ち行かなくなる。

教育委員会も考えていて、そういう問題も議論できれば非常にいいと感じている。学校統合も含め新たに学校を作る等の問題になると、教育委員会だけでは無理ですから市長部局の考え方と合わせながら進めていくことができればいいと思っている。

【市長】 大綱の策定については、全国市長会でも8割ぐらいがテーマとなっている。かつては財源論に終始していたが、もう一度「人づくりから本腰入れていかなければ」という風潮で、少子高齢化の問題、日本の財政再建問題、国際化問題も基本は人づくりに原点回帰し、時間がかかってもいいから日本人としての価値観を再構築するための教育のあり方という方向になってきている。

【市長】 資料3中、「市長が策定する」という表記が気になるので、教育委員会との共同作業という意識を強くする意味で「市」という表記を求めたいがいかがか。

(了承)

【市長】 石狩市第5期総合計画は市の総合政策であり教育プランも同様。そこから肉付けしたものが大綱として位置づけされることになる。

【教育委員会】 大綱の表現があまり断定的だと入りにくい部分があり、かといって逆だと何を言っているかわからない。私たちや市民が見ても分かるよう、具体例を挙げて分かりやすくし、それを教育プランの具体的な実行などに反映させて、目的達成のためにどうすればいいのかという繋げ方にした方がいい。

【教育委員会】 内容もさることながら「大綱」という言葉を変えてもいいかもしれない。

【教育委員会】 教育プランや総合計画そのものを大綱としている市町村もあるが、本市としてはそういう方針ではない。教育プランや総合計画の重要な部分を取り上げ、それをベースに、財源も考慮しながら市長の考え方を加えた具体的なものにすべきと思う。

【教育委員会】 市長が進める方針と教育委員会だけではなかなか判断しきれない政策的な判断が必要なことを入れましょうというのが、資料3に記載されて

いるポイントということ。

【事務局】 具体性という点では、総合計画や教育プランの基本的な考えを踏まえつつ、より具体的な内容、例えば「人材育成」「英語教育」「ICT」といった施策レベルでの記載も考えられる。

【教育委員会】 下村文部科学大臣の資料の1ページ目に教育投資への効果が書かれていて教育予算にどんどんつけてほしいと思うが、一方で少人数学級をやめようという動きもある。国の機関においてもどうも齟齬があるような感じがしている。

【市長】 今後は、給食費や医療費の無料化といった問題も考えられるのでは。教育問題だけでなく少子化問題も重要なテーマなので、施策の優先度に応じてどこまで記載すべきかを考えなければならない。

【教育委員会】 無料化など具体的に載せてしまうと期待を持たせてしまうし、それを実現できるのかという議論になる。

【教育委員会】 給食費や医療費の無料化が、直接定住に結びつくかと言えば、必ずしもそういうわけではない。

【教育委員会】 普段小・中学校に行きって思うのは、やはり教員の数が必要である。国はそこに予算をかけてほしい。1クラスにもう1人教員を配置できれば、目が行き届き、理解の遅れもフォローできるし、クラス全体の集中度も増すと考えられる。

【市長】 教員の配置基準はどうなっているか。また、教員数の不足による負担の問題が全国などで議論されているか。

【教育委員会】 国の基準に基づき、学年や学級数によって教員の配置数は決まっており、学校が統合されれば教員数も減る。学力向上など特別な部分で加配という制度はあるが、それも枠があり限りがある。また、教員数の問題は、トータル的な課題として全国でも議論されている。

少人数学級の効果が認められていても、必要な人数が配置できないという状況もある。

【市長】 三笠の道立高校が廃止になって市立になってから、調理師等を養成する高校に生まれ変わり、就職率100%の高校になったとのことである。

また、市には、医師や看護師を養成するための支援をしてほしいという要望も受けている。

そうした職業教育に関する環境づくりについての議論もこの場で必要になってくると思う。

- 【教育委員会】 以前、浜益小学校で理科の実験教室を2～3回やったことがある。予想していた以上に子どもたちがはつらつとしていて理解力がある。例えば、厚田や浜益も含めて何か高いことから構想を作って、外からも人が集まってくるような夢のある学校を立ち上げて、その中に医療従事者の特別人数枠をつくり、教育費が無料とか奨学金支給などそういうものを作ればそれを目指す子どもたちも出てくるのではと思う。あえて子どもの数が少なかった地域でも子どもたちを伸ばす機会を与えてあげてやるというのは非常にいいのかなという気がする。
- 学校統合もそうしたことを含めて考えていくことができればいい。
- 今、学校の教員には勤務環境が十分でなく、思うような職員配置もとれないと思う。正規じゃなく教員の免許を持っていなくても子どもたちを指導できる人材は結構いるし、正規ではないので教員のように人件費がかかるといえる考えもない。
- 実際石狩市でも何人かのサポーター的な人がおり、そうした枠を広げていくと、教員の数が不十分でも少人数教育を実質的に達成することが可能ではないかと思う。

- 【教育委員会】 きっかけをどうつくって子どもたちに示すかだと思う。全国学力テストのアンケート結果では、「理科離れ」とよく言われるが、意外と子どもたちは好きだという結果が出ている。ただその期待に応える機会がない。

- 【教育委員会】 4年生ぐらいまでは好きだが、次第に嫌いになり中学生になると理科離れが進んでいく。
- 観察や実験を実際見るような機会が非常に限定されていって小学校高学年になると座学が中心になる。
- それは高校入試のためにそうした知識を取り入れないと駄目だということで、そちらに偏っていくため、子どもたちは段々嫌いになっていくのだと思う。基本的には好きだと思うので、実験とか観察ができる機会を与えることができれば理科が好きな状態を維持できると思う。

- 【教育委員会】 今勉強していることが世の中のこのような事につながっているとイメージできれば、面白さを感じてくれると思う。

【教育委員会】 理解できれば面白くなり、もっと勉強したくなる。逆に理解できなければ分からなくなり、テストの点数も悪くなる悪循環に陥ってくる。

【事務局】 やはり教員の質もそうですが、量や少人数でやるという体制づくりを進めるといいと思う。やはり、子どもたちが分かるようにするためには、子どもたちの意識の向上をはかるために、興味関心を高めるような環境づくりが必要。

【教育委員会】 教員の免許を持っていなくても、例えば現役時代にある分野でスペシャリストだった人達が学校の現場に出入りできるようになる。それで子どもの手助けができる。そのような仕組みがうまく出来るといい。

まさしく5期総合計画の「新現役世代」である。いろいろなキャリアを持った方たちが元気に暮らしている。教育の分野でもその方々の力を生かせたらと思う。

【市長】 市民カレッジの参加者は人材が豊富。そういう人材が学校の現場に入ってくるといいと思う。

【事務局】 概ね意見が出揃ったようなので、本日はこれで閉会したいと思います。よろしいか？次回は大綱案ができ次第ご御議論いただく。

(了承)

(市長あいさつ)

【市長】 結果は私が責任を持つことは決まっておりますので、いかに話し合っ問題点を明らかにするか。具体的な策が無いと、いくら議論しても始まらないので、良いものを作るよりは、良い方向で議論が深まれば、結果として具体的になると思いますので、是非これからもご意見いただければと思います。

(閉会)

平成27年6月30日

署名委員 門馬富士子

---